

ブルガリア 幼稚園教諭対象ワークショップ

ブルガリアの首都ソフィアで、ある幼稚園から「園での教育に日本文化を取り入れたい」という依頼を受け、2回にわたってボランティアが先生方に文化紹介をしました。このような教諭対象ワークショップという試みは指導者の養成ともいえます。イベントや講座のような「日本文化を知ってもらう・体験してもらう」ということに重点をおいた活動と比較すると、「現地の人たちが日本文化を教える技術を身につける」という点で持続的かつ有効的で、草の根の広がりが期待できます。日本語教育においては配属先の人材育成として教師指導を行うこともありますが、文化発信の面でも、生徒や学生が日本の文化を教える（伝える）立場になれるような指導をしたり、教育現場の先生にワークショップを実施したりすることで二次的効果が見込まれる文化発信を行っている例が各国で見られます。こうした活動はまさに本プログラムのボランティアの究極の成果と言えるでしょう。

今回幼稚園の先生方に紹介した日本の遊びは、折り紙、福笑い、紙版竹とんぼ、和風、どんでりや紙で作る独楽、歌「大きな栗の木の下で」など盛りだくさん。その他着物や生け花も紹介しました。これらのワー

クショップでは、先生たちの「ここでボランティアから学ぶことを園児に伝えたい」という積極的な情熱と、「自分のものにして園での教育に生かしたい」とい

う強い意欲が感じられ、ボランティアにとってもやりがいを感じる活動だったようです。ボランティアが準備した展示用の様々な種類の折り紙は、園児に見せたいという思いが伝わるほど熱心に観察する姿が印象的でしたし、福笑いを興味津々で見つめる視線や、歌に合わせて振付けに取組む姿は真剣そのもの。紙とストローでできた竹とんぼのしくみが意外と簡単であることへの驚き、平面である紙が息を吹き込むと膨らむ風船やぴよんぴよん動くカエルになっていく折り紙の作成過程の感動は、もっともっと他のことも吸収したいという空気を生み出し、先生たちにとってもボランティアにとっても有意義な時間となりました。

これを受けて、同幼稚園では実際に日本文化紹介が12月9日と13日の2回行われました。対象は両日とも3～6歳の全75名（25名×3回）の園児たち。初めての折り紙と歌

【教諭対象ワークショップの様子】



竹（紙）とんぼ講習



福笑いの遊び方紹介



折り紙の風船作成



折り紙作品の数々

【園児対象の文化紹介の様子】



「大きな栗の木の下で」
の小さい木を作っています



できあがった作品を
見せる園児たち



自分で作ったカブトを
かぶって記念撮影

に子どもたちは大喜びでしたが、先生たちが要領が分かっているので手際よく進めることができ、ボランティアとのコラボレーションもバッチリ!!! 年齢の低いクラスでも問題なく作品を作り、一緒に歌って振付けをして楽しむことができました。ボランティアは

事前のワークショップの成果を十分に感じただけでなく、日本人がいなくても同園では折り紙や歌が現地の先生たちの手によって引き続き伝わっていくことを実感したそうです。

この園では5月に「日本の日」を企画し、その際風揚げを行いたいという希望があることから、先生たちだけで指導ができるよう、再度風のワークショップが予定されています。その効果はきっと園児の笑顔につながりますね。